



2020年から始まった新型コロナウイルスの感染もようやく減少し、社会活動も活気を呈してきました。鳥城会では昨年、3年ぶりに対面による総会・懇親会を鳥取西高の國岡進校長、小谷文夫

同窓会長出席のもとで開催致しました。鳥城会では、当番幹事となる55歳より若い世代の会員を増やして活性化を図ることが長年の課題でしたが、その第一歩として2021年にはホームページを

開設して鳥城会の活動を広く知って頂くことに努めました。また、卒業式の後に行われる同窓会入会式では、QRコードのついた入会案内を配布しましたが、関東の大学等に進学した若い同窓生たちが入会されることに期待を込めています。鳥城会の活動に關しましては、会報に記載しているQRコードをご覧ください。

これに関連して、昨年から新入会員歓迎会を始めましたが、嬉しいことに今年は、15名(内10名が学生)が歓迎会に参加してくれました。こうして若い世代の同窓生が着実に増えることにより、鳥城会が世

代を超えた活発な交流の場として用いられていくことを願っています。今年には鳥取西高の創立150周年になります。鳥城会の多くの方々が記念事業のために多額の寄附をして下さったことに対して、鳥取西高および同窓会から感謝の言葉を頂きました。



1987年に鳥取西高等学校を卒業し、鳥取大学医学部医学科に進学、卒業後は外科医として修練を行う。外科専門医、学位(医学博士)を取得し「目の前の患者を救い上げた」と救急医の道へ。豊富な臨床経験と、J.R.福知山線列車脱線事故をはじめとした多くの災害現場対応の手腕を買われ、医療崩壊した兵庫県但馬地域に着任し、地域救急医療体制を立て直し、同時に全国屈指の救命救急センターと全国一のリ・ドクター・ドクター事業を展開した。そし

て2021年4月、日本一の救急医療過疎県・地元鳥取に戻り、多くの仲間と共に奮闘している。その活躍ぶりは数多くのメディアにも取りあげられる。

予定講演内容  
「人は生きて、生き

## 世代を超えた同窓生に必要とされる鳥城会になるために

鳥城会会長 小島憲道



発行 鳥城会事務局  
03(6267)4550  
制作 (有) august design  
03(4405)6258



鳥城会ホームページQRコード

## 次回総会講演はドクターヘリ的小林誠人さん

令和4年10月22日(土)、鳥城会(関東地区同窓会)総会を恒例のアルカディア市ヶ谷にて、3年ぶ

りに対面で開催いたしました。リアルでの開催ということ、鳥取からも國岡校長と同窓会長の小谷様にもご出席をいただき、総勢66名の開催となりました。

私は前年から学年幹事を拝命していましたが、コロナウイルス感染症の状況が不安定で、開催をオンラインにするかを執行部会でずっと模索し続けました。そして2ヶ月前の8月末にようやく対面での開催が決定し、そこから急いで同級生に幹事の協力をお願いしてなんとか13名に集まっていた。長・事務局長をはじめ、執行部の方々のご協力のもと急ピッチで準備を進め、なんとか総会の開催にこぎつけた。総会ではハガキでの事前承認形式でしたが、小島会長からは意見のあった課題について今後の取り組み方針をご説明いただきました。次の特別講演ではコロナ禍でなかった2年前か

からの高校関連の想い出として印象深いのは、大学入学時、鳥取西高出身の先輩方に歓迎会を開いて頂いたことです。同じ大学に通われる先輩方に大学での過ごし方や専門課程の様子など、多くの貴重なお話を伺ったことで、その後の大学生活や進路選択の見通しが大きく開けました。当時快くいろいろな相談に乗って下さった先輩方には深く感謝しています。

方々も、一年、そしてまた一年と時を経るにつれて、見違えるほどしつかりされていくのを見るのが、幹事としての密かな(?)楽しみとなっています。歓迎会にいらした学生さんとの雑談が、進路相談に転じることもあるようです。進路を決めるべき時期の学生さんが研究職か国家公務員かで迷っている様子など、研究職に關しては私から、そして国家公務員に關しては鳥取時代からの私の同級生に連絡を取り、母校の後輩のために一肌脱いでくれたその彼から、それぞれ話を聞いてもらったこともありました。そんな経緯もあってか、その方は卒業後の今でも歓迎会に顔を出して下さっています。他の仕事とバッティングすることも増えてはきたのですが、自分自身が以前お世話になった恩返しも兼ねて、今後も可能な範囲で、こちらの歓迎会に携わっていかねばと思っています。

私は、鳥取で生まれ育ち44年。平成の失われた30年。ギリギリ、バブルを知らない就職氷河期世代。同級生にはいまだ採用にならない友人や未婚者も多くいます。中学時代に参加した「東京と鳥取はどちらが暮らしやすいか」という討論会が今も記憶を過ります。幼な心に通った近所の祭りも尊さの一方で、寂しさを感じずにはいられません。「すなばスポーツ」と言う団体を設立して8年。鳥取東部圏域で砂を媒体とし、尚且つ、スポーツによって幅広、「鳥取らしさ」「鳥取愛」を見つめて頂きたい。活動して参りました。各種ビーチスポーツ大会の開催目標とした鳥取での



## 「自ら鳥取を育もう」

1998(平成10)年卒 (一社)すなばスポーツ

代表理事 岸本雄司

ビーチサッカー全国大会の誘致も実現しました。沢山の方々に逢い、支えられ、話させて頂いた事に感謝致します。様々なご縁やお仕事を頂くようになり、日本財団の海と砂丘プロジェクト、砂丘セグウェイや水上アトラクション、とっとりふるさとリーダーアカデミーや新潟県ポルカ教室、ドローン講師やカヤックガイドなど、鳥取在住のまま、



戦略を続ける会社社長は県外出身。他にも多くの県外出身「鳥取ラバー」にお逢います。「東京と鳥取はどちらが暮らしやすいか？」答えの無い問いなのでしよう。ただ、想うことは、全ては理想であり、夢でありき。あるべき姿を想像し、あるべき姿を人に伝え歩む事。あなたの想うあるべき姿、あるべき鳥取。悩みのない成長はあり得ません。いつでも等身大で「真剣」。コロナで変化した時代、溢れかえった情報の渦、見失う事も、勇気をもらう事も。真正面から、話合える街であって欲しい。鳥取砂丘、鳥取城跡、中心市街地に山間地域。文化芸能や食、様々な角度や媒体で鳥取を誇り魅せる。そして人。共にこの瞬間を生きている方々と自分らしく笑顔でお逢い出来る事を楽しみにしています。結びになりませんが、私の様な若輩者がこのような寄稿をさせて頂くことに感謝申し上げます。

理事長 井口 靖浩

for the Patient

私たちの法人では、医療だけではなく介護や在宅とも連携しながら、患者さま利用者さまに対して、人生を笑顔で、明るく前向きになって頂ける「トータルケア」を目指して参ります。

鳥城会副会長 昭和51年卒業

医療法人社団 自靖会

自靖会は、医療・介護・在宅の連携を実現し地域の発展に貢献いたします

自靖会 TEL:03-5661-3872

井口腎泌尿器科・内科 親水  
井口腎泌尿器科 船堀  
井口内科中央  
介護老人保険施設 めぐみ  
ヴィラドウのぞみ  
在宅総合支援センター せせらぎ

医療法人社団 光靖会

光靖会は、専門外来と人工透析の診療を通じて皆さまに信頼されるクリニックを目指します

光靖会 TEL:03-6231-5931

井口腎泌尿器科 亀有  
井口腎泌尿器科・内科 新小岩  
井口腎泌尿器科・内科 北綾瀬  
大貫内科クリニック



